

国際金融安定性報告書

リスクテイク、流動性、影の銀行部門：経済成長を支えつつ行き過ぎを防ぐためには

2014年10月

第二章要旨

本章では影の銀行部門の拡大とその抱えるリスク及び規制当局の対応を取り上げる。影の銀行部門とは、通常の銀行システムの外で行われ、従って公的な安全網に支えられていない、信用仲介機関ないし業務を総称したものである。

影の銀行部門が最も大きく存在する先進国では、国際金融危機以降、狭義の各種指標は影の銀行部門の停滞を示す一方、（投資ファンドなどを含む）より広義の指標では引き続き拡大が続いていることが認められる。新興市場国では影の銀行部門は強い成長を見せており、拡大のペースは伝統的な銀行部門を上回っている。

影の銀行部門の具体的な形態は国により大きく異なるが、その成長背景には銀行規制の強化と潤沢な流動性の存在、機関投資家のニーズ拡大といった共通の要因がみられる。先進国の金融状況は引き続き影の銀行部門の拡大を後押ししており、伝統的な銀行部門からノンバンクに企業融資など一部の業務がシフトしている点が多く、経済金融指標からも裏付けられる。

影の銀行部門はより多くの借り手に信用を供給するとともに、市場流動性を高め、満期変換、リスクの分担などの金融機能の充実に寄与することで、伝統的な銀行部門を補完するという有益な機能を果たしうる。しかしながら、2007年から08年にかけての国際金融危機でもみられたように、しばしば銀行と同じようなリスクを伴うことがある。データ面の制約から総合的な評価は難しいものの、影の銀行部門からの国内システムリスクへの寄与という観点からは、米国が最も大きな影響を受ける一方、ユーロ圏や英国ではさほど大きな影響はないとみられる。

政策当局にとっては、システムリスクの発生を出来るだけ抑えつつ、影の銀行部門の利点をいかに活かすが課題となっている。本章では規制枠外の金融活動の拡大に対応するに当たっては、業務内容と業務主体の両者に焦点を当てた、システムリスクをより重視した包括的な規制監督のアプローチを採用するよう、提言している。しかしながら、ほとんどの国では影の銀行部門の多くの業務総量についての情報すらない状況にあり、まずはデータ面の整備を図る必要がある。

国際金融安定報告書

リスクテイク、流動性、影の銀行部門：経済成長を支えつつ行き過ぎを防ぐためには

2014年10月

第三章要旨

銀行の過剰なリスクテイクが国際金融危機の一因となったことはもはや共通認識となっている。同時に、そのような過剰なリスクテイクを防げなかった監督のあり方にも大きな欠陥があった。監督の仕組みを更に強化し、規制が適正なインセンティブを与え、銀行がより堅実な経営を行うよう、様々な改革の取り組みが進行中である。改革を通じ、銀行の自己資本と流動性に余裕を持たせ、また過剰なリスクテイクに対するインセンティブを抑えることが目指されている。後者については、リスクテイクに対するガバナンスの強化と、リスクテイクを反映した役職員の報酬体系の確立を目指した施策の導入が進んでいる。

こうした改革が効果を発揮し、また予期しない副作用をもたらさないためには、銀行におけるリスクテイクがどのようにして決められるかを十分に理解したうえでの制度設計が必須である。本章は、銀行の業績やリスクに関する種々の指標と銀行のガバナンス、リスク管理体制、報酬体系、株主構造といった側面との関係を実証的に分析することで、リスクテイクのあり方に関する理解を深めることを目指している。

実証分析ではいくつかの点が明らかとなった。経営陣から独立した取締役がいる銀行の方がより少ないリスクをとることが判明した。経営陣の報酬の額とリスクテイクの間には明確な関連がみられないが、長期的な職務成果に応じた報酬が多いほどリスクテイクは小さくなる傾向が見られる。また、機関投資家の株主比率が高い方が、リスクテイクは小さくなる。なお、予想通り、経営状況が極端に悪化し、銀行破綻の可能性が高まった場合には、インセンティブが大きく変わるためこうした関係が崩れることも認められた。

こうした結果を基に、本章では以下のような政策を提言している。なお、提言には既存の施策と重複するものもあるが、これまでは実証的な裏付けがなかった点を補強した提言となっている。まず、経営陣の報酬に関しては、銀行のリスクテイクを（銀行債権者にとってのリスクという観点も含んで）より適切に反映させ、支給を一部繰り延べし、事後的な返還も可能とすること。取締役会に関しては、経営陣から独立させ、リスク委員会を設置すること。監督当局はリスクテイクに関する取締役会による監視が有効に機能している点を確認すべきこと。取締役会には株主だけでなく、社債保有者の代表も含めることも検討されて良い。最後に、市場規律が有効に働き、説明責任が果たされるために、透明性の確保が極めて重要である。